

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	交流・環境		責任者	企画調整室 環境担当課長
施策名	良好な港湾環境の形成		連絡先	052-654-7819
事務事業名	環境マネジメントシステム(EMS)の運用		連携課	
目的	対象(誰・何を)	本組合における環境負荷	事業期間	平成15年度～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	継続的に低減し、環境目標を達成します。		
概要	本組合において環境目的・環境目標を設定し、職員の環境意識向上を図るとともに、環境に配慮した施策を推進するなど、EMSを運用します。		根拠法令等	
27年度の実施予定	平成27年度より各管独自のEMS「各管EMS」の運用を開始しました。監視・測定として四半期ごとに各推進員から記録書の報告を受け、12月に職員相互による環境監査を実施します。取組結果については本組合ホームページにて公表します。		実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
			関連シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	25年度	26年度	27年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	432	38	200	223	事業費:平成26年度は、11月にISO14001の認証を返上したため定期審査料は発生せず、11月までの登録維持料のみとなったため減少し、平成27年度は、環境監査員養成研修に係る委託料を計上しています。
人件費	千円	5,694	6,607	6,243	6,181	
合計	千円	6,126	6,645	6,443	6,405	

3 CHECK(検証)

指標名		25年度	26年度	27年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
各種研修の対象職員受講率(%) (単年度管理型)	目標	-	100	100	100	EMSマニュアルで定めている各種研修の対象職員の受講率を算出します。	
	実績	100	100	96			
指摘事項件数(件) (単年度管理型)	目標	-	-	0	0	環境監査において、指摘事項を受けないよう、EMSの適切な運用を目指します。	
	実績	-	-	0			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	職務の都合により、研修を受けることができなかった職員がいたため研修の受講率は96%となっておりますが、平成28年度受講する予定となっております。また、指摘事項件数は0件であり目標は達成しております。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	温室効果ガス削減のための地球温暖化対策実行計画を推進するためには必要な事業です。					
	○						
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	環境負荷を継続的に低減し、環境目標を達成することは、上位施策である「良好な港湾環境の形成」に貢献すると考えております。 EMSを運用することで、職員の環境への意識が高まり、地球温暖化対策実行計画の推進に貢献しました。					
	○						
効率性 最小のコストとなっているか?	○	監査員研修によって環境監査の充実を図るほか、書類のデータ化の促進を図ることで、効率的なEMSの運営を行っています。					

4 ACTION(取組)

課題	28年度以降の取組
業務の効率化による環境負荷軽減の取組をより一層推進する必要があります。 また、指定管理者に対してもより一層の温室効果ガス削減を求めていく必要があります。	各課から提示された業務の効率化について、庁内で水平展開し幅広い視点からエコ行動に取組むことができるよう「重点的に取り組める項目」を事務局で選定し各課へ周知します。また、指定管理施設における指定管理者のEMSの取組の強化に向け調整していきます。